

《参考資料》 市長マニフェスト項目とマニフェストに関する取組み事業名の対応表

参考資料

I 市政の透明性を向上する

i 今こそガラス張りの市政を

市長マニフェスト項目		マニフェストに関する取組み事業工程表	
項目No.	マニフェスト内容	No.	取組み事業名
1	今回の事件は何が問題だったのか、他にないのか、徹底的に調査する。内部調査ではダメなので第三者も交えた調査委員会で調査する。	1	入札制度に関する第三者も交えた調査委員会の設置
2	もう二度とこんな事件は許さない。市長と職員の守るべきルールを定め、場合によっては市民から調査を求めることができる政治倫理条例を制定する。	2	政治倫理条例の制定
3	口利きが汚職のもと。議員を始めとした有力者からの要望、陳情は文書で残し、市民に公開する。	3	有力者からの要望・陳情の文書保存と公開
4	入札制度をさらに改革。委託契約は誰でも入札に参加できる希望型指名競争入札の枠を広げ、真面目な業者が報われる予算の使い方に変える。	4	希望型指名競争入札の拡大

ii 千葉市のことは千葉市民が決める

5	情報公開度ランキングはいつも政令市最下位、学校・保育所の耐震強度が不足していることを市民に長年隠すなど、千葉市の秘密主義を改める。委員会や審議会は原則全て市民に公開、私たちのお金の使い方(予算編成過程)も当然公開。	5	附属機関の会議及び予算編成過程の公開
6	市の施設を管理する事業者を選ぶ委員会のメンバーがほとんど市職員。これはおかしい。選定委員会のメンバーは原則外部委員のみ。さらに選定過程も市民に公開する。	6	指定管理者選定委員会の改善
7	市長は市役所の代表ではなく市民の代表。市役所の奥にある市長室を1階に移転するなど、市民に身近な場所に移転する。下らないと言わなけれ。まずは意識改革からやる。	7	市民に身近な市長室の実現
8	市長、市役所が何をしているのか市民が分からない市はダメ。1年に2回以上は各区で市民との対話会をする。	8	広報・広聴機能の強化

iii 市役所から区役所へ、区役所から市民に分権

9	現場や市民に近い区役所が一番元気でなければいけない。区役所の権限と予算を拡大し、私たち市民の声にきちんと応える区役所、区独自の問題にも取り組む区役所を作る。	9	区役所機能の充実(業務の拡充)
10	現場や市民の声がトップに届く行政にする。区長を市の幹部会議のメンバーに加え、議会の説明員にもする。区長は区行政に責任を持つ。	10	区役所機能の充実(区長の庁議等出席)
11	市民参加条例なのになほとんど市民参加の方法がない今の条例をすぐに修正する。また、市民と行政の役割を定めた自治基本条例を制定して、市民が主役の街づくりを進める。	11	市民参加条例の改正
		12	自治基本条例の制定
12	一般市民からの公募委員を増やす。有償ボランティアも整備して、市民の力を活かせる制度作りに取り組む。市職員は7000人で、これから減っていく。市民は94万人いる。市民の声と力を活かさなければこれからの行政はなりたない。	13	公募委員選任の推進
		14	有償ボランティアの活用の推進
		15	ボランティアデータベースの構築

II 大規模開発の見直し、行政の効率化による財政再建

i 大規模開発を見直す

市長マニフェスト項目		マニフェストに関する取組み事業工程表	
項目No.	マニフェスト内容	No.	取組み事業名
13	再開発は右肩上がり時代だから成功しただけ。人口減少、少子高齢化の中で昔の栄光にすがって都市開発をするのはまさに時代遅れ。税金の無駄。今止められるものは全て止める。	—	—
14	千葉都市モノレールの延伸(総事業費176億円)は中止する。延伸する前に経営改革。	16	千葉都市モノレール延伸の見直し
15	千葉駅西口再開発事業(総事業費700億円)は見通しが甘く未だに更地のまま。千葉駅周辺のオフィスが15%も空いている状況でオフィスビルを作っても仕方が無い。今までの計画にこだわらず、計画の縮小や周りの施設をこのビルに集約することなどを検討し、駅前用地を放置したままにしないようにする。	17	千葉駅西口再開発事業の再検討
16	千葉駅北口の弁天地区複合施設整備(土地購入だけで16億円)は、西口で失敗している状況で北口に施設を作るという、まさにタテ割り行政、ムダの象徴。土地売却も含め計画の全面的見直しを行う。	18	弁天地区複合施設整備の見直し
17	蘇我スポーツ公園整備(総事業費350億円)は倒産一歩手前の会社が保養所を作るようなもの。あったら便利で作る余裕はない。縮小する。	19	蘇我スポーツ公園整備の縮小
18	その他の開発事業も「本当に意味があるのか」「止める方が損をするのか」を一つひとつ調べて、ムダなものは全て中止する。	20	開発事業等の見直し(幕張町215号線(花立踏切)整備の見直し)
		21	開発事業等の見直し(都市計画道路の見直し)

ii 市役所の仕事を総点検し、行政の効率化を図る

市長マニフェスト項目		マニフェストに関する取組み事業工程表	
項目No.	マニフェスト内容	No.	取組み事業名
19	今までの仕事のやり方を変えずに予算をカットすれば市民と業者にしわ寄せが行くだけ。仕事の総点検(事業のたな卸し)を実施して、行政のムダをカットする。	22	事務事業評価の実施
20	補助金のムダもカットする。有識者や市民も交えた第三者機関で定期的にチェックし、必要のない補助金はカット、逆に必要な団体は増額する。	23	補助金の見直し
21	外郭団体がたくさんあり、市OBが数多く役員になっている。本当に必要かどうか徹底的にチェックし、統廃合を進める。	24	外郭団体の見直し
22	隠れた財布である特別会計や企業会計にもメスを入れる。経営専門委員会を設置し、定期的にチェックする。	25	特別会計及び企業会計の経営健全化に関する有識者からの意見聴取
23	カットはまず自分から。市長の給与、期末手当を大幅にカットするとともに、副市長以下の特別職の給与カットも検討する。	26	市長等の給与カット

iii 市役所を元気にする。市役所は“市民の役に立つ所”に

24	区役所の日曜開庁、駅前出張所、自動交付機、夜間電話サービスなどを駆使して、市民サービスを向上させる。	27	市民サービスの向上(区役所の日曜開庁及び自動交付機)
		28	市民サービスの向上(夜間電話サービス)
25	ハンコだらけのお役所仕事を改める。決裁手順を簡略化して意思決定のスピードを早める。	29	決裁手続きの迅速化
26	職員のやる気を引き出す。人材登用の柔軟化、立候補ポストの拡大、能力実績に応じた給与体系の導入、職員研修の改革を実施して、意欲に燃える職員を育てる。	30	職員の意欲向上に向けた取組み

iv 千葉都市モノレールは公募社長で改革する

27	実質的には赤字のモノレール会社社長に市幹部OBが天下っている状況は許せるものではない。社長を公募し、やる気と実行力がある公募社長のリーダーシップのもと、大胆な経営改革、積極的な営業と広報活動を展開し、真の黒字化を目指す。	31	千葉都市モノレール株式会社の経営改革(公募社長による改革)
28	モノレールへの天下り社員を減らす。若く意欲に燃える現場の社員を登用し、新しいモノレール会社を作る。	32	千葉都市モノレール株式会社の経営改革(社員の育成及び登用)
29	千葉都市モノレールの高コスト体質の原因でもある懸垂型を長所に変えるため、陳腐化した名称である”モノレール”から”空中飛行鉄道”、”スカイレール”などの空をイメージする名称に変更し、アナウンスや各種案内・設備をそのイメージの元で統一する。	33	千葉都市モノレール株式会社の経営改革(イメージの向上)

III 市民の命と幸せを大事にする千葉市を創る

i 命が第一。安心して医療と介護が受けられる街に

市長マニフェスト項目		マニフェストに関する取組み事業工程表	
項目No.	マニフェスト内容	No.	取組み事業名
30	医師の確保がまず絶対に必要。特に小児科医と産婦人科医が足りない。医師の待遇改善、コンビニ受診防止などで負担軽減、院内保育所の設置などで医師の定着を。	34	医師の確保と定着に向けた環境整備(医師の処遇改善)
		35	医師の確保と定着に向けた環境整備(コンビニ受診の防止)
		36	医師の確保と定着に向けた環境整備(院内保育所の改善)
31	青葉病院と海浜病院の事務局長は今、市職員が2、3年交代で務めている。病院経営に精通したプロの事務局長を任命することで、攻めの医療の展開と経営改革を行う。	37	市立病院の経営改革
32	国民健康保険の滞納世帯に対する保険証取り上げ率が他政令市と比較して飛びぬけて高い現状を改め、短期保険証の発行や納付相談などに真摯に対応することで納付率の向上と医療機会の提供に努める。	38	国民健康保険料滞納世帯への対応

ii 若い人もいつかは老いる。安心して老後を迎えられる街に

33	千葉市は今後急激な高齢化を迎える。2005年の高齢化率は17%、これが2015年には25%、2030年には30%を越える。早めの対策が必要。特に今後不足する介護人材を確保するため市独自の対策を実施する。	39	介護人材の確保
34	特養ホームの新設といった施設の整備はもちろん、ひとり暮らし高齢者への見守り支援、認知症への支援強化などを実施し、高齢者が安心して暮らせる基盤を作る。	40	高齢者が安心して暮らせる基盤整備(特別養護老人ホームの整備)
		41	高齢者が安心して暮らせる基盤整備(ひとり暮らし高齢者見守り支援)
		42	高齢者が安心して暮らせる基盤整備(認知症への支援強化)
35	放課後教室でのボランティアやシルバー人材センターをさらに充実させて、高齢者の知恵と元気が街に活力を与える千葉市を創る。	43	放課後子ども教室の推進
		44	シルバー人材センターの充実

iii 障害者や生活困窮者など弱者の痛みをに向けた市政へ

市長マニフェスト項目		マニフェストに関する取組み事業工程表	
項目No.	マニフェスト内容	No.	取組み事業名
36	障害者の負担軽減、障害者施設への支援強化を図るほか、障害者の雇用を高めるため、事業所への働きかけを積極的に行う。	45	障害者の利用負担軽減
		46	障害者施設への支援強化
		47	障害者雇用の促進
37	生活保護世帯を対象とした就労支援員を各区に1名配置し、就労に関する相談にきめ細やかに対応することで貧困の連鎖を防ぐ。	48	生活保護受給者に対する就労支援相談員の配置
38	自殺対策ホットラインを設置するなど自殺対策を強化し、真に悩める市民を1人でも多く救済するため最大限の取り組みを行う。	49	自殺対策の強化

IV 未来への投資で全国に誇れる県都：千葉市へ

i 子どもを産み、育てたいと思う千葉市を創る

市長マニフェスト項目		マニフェストに関する取組み事業工程表	
項目No.	マニフェスト内容	No.	取組み事業名
39	保育所が一杯で子どもを預けられないお母さんを一人でも減らす。保育所の拡充はもちろん、質の向上に同時に取り組む。	50	保育所の拡充
		51	保育の質の向上
40	子どもルームの拡充やシングルマザーへの就労支援などを行い、働くお母さんを強力に応援する。	52	子どもルームの拡充
		53	母子家庭の就業支援
41	母子家庭だけでなく、父子家庭にも援助の手を差し伸べ、子どもを持つ親が安心して子育てができる環境を整備する。	54	父子家庭への支援
42	周産期医療体制の充実や子宮がん検診の普及を進めて、安心して出産できる体制を整備する。	55	周産期医療体制等の充実
		56	子宮がん検診の普及
43	小学校卒業までの入院費無料、赤ちゃんに絵本を渡すブックスタートの導入、加工食品の検査体制の強化や給食の地産地消を推進し、安心して豊かな子育てが実現できる街を目指す。	57	子どもの医療費助成の拡充
		58	ブックスタートの導入
		59	食品の検査体制の強化
		60	学校給食における地産地消の推進

ii 千葉や日本を支える素晴らしい人材が育つ街に

44	少人数指導、少人数学級を推進し、先生が子ども1人ひとりに目を向けられる教育体制を確立する。	61	少人数指導・少人数学級の推進
45	教員の事務支援体制の充実、報告事務の軽減化を図り、先生が子どもたちにより多くの時間を割ける環境を整備する。	62	教員の勤務負担の軽減
46	教員登用制度の改革を行い、教員がより意欲をもって仕事ができる制度を整える。	63	教員登用制度の改革
47	現在、2市立高校のみが対象となっている市独自の奨学金制度を、その他高校や大学も範囲に含めた”意欲ある子どもの教育機会を確保する”制度に改めるため、有識者を交えた千葉市奨学金制度検討委員会を設置する。	64	奨学金制度の検討
48	京葉工業地帯を支える企業群や千葉大学、放射線医学総合研究所などの学術研究機関と連携し、机上ではない”ワクワク、実感できる”理科教育・科学教育を行う。	65	理科教育・科学教育の充実

iii 未来に緑豊かな自然と文化あふれる街を残す

市長マニフェスト項目		マニフェストに関する取組み事業工程表	
項目No.	マニフェスト内容	No.	取組み事業名
49	焼却ゴミ3分の1削減を強力に進める。そのためには雑紙の回収率を高めることが大きな鍵。雑紙回収に特化した広報物の作成やPRに努める。	66	焼却ゴミ1/3削減の推進
50	自転車レーンの設置や駐輪場の整備を進め、自転車利用の促進を図り、自動車社会からクリーンな社会の実現を目指す。	67	自転車走行環境の整備
		68	自転車駐車場の整備
51	谷津田や里山をはじめ、市内に残された緑の保全や緑の創出、地下水の保全を進める。	69	谷津田保全区域の拡大
		70	里山の保全
		71	街山の保全
52	千葉市内にある様々な文化施設を発掘、保存、活用し、文化に溢れる街づくりを目指す。	72	文化施設・文化財の活用の推進

iv 全国に先駆けた先進行政サービスが受けられるIT先進都市へ

53	民間での実務経験とIT企業出身の経験を活かし、全国に先駆けた電子行政サービスが受けられる千葉市を創る。	—	—
54	まずインターネット申請を一気に増やす。本人確認がネックだったが、今や民間は携帯カメラで免許証を撮影して確認する時代。民間のアイデアを活かしてお役所仕事にとらわれない、市民にとって一番便利なサービスを実現する。	73	電子申請サービスの拡大
55	インターネット申請を増やすことはコスト削減にもつながる。ネット割引を導入して市民もおトク、市役所もおトクなサービスを実現。	74	インターネット申請割引の導入
56	ホームページが分かりにくい。利用者である市民を編集委員にして利用者の視点に立ったホームページにリニューアルする。	75	ホームページのリニューアル
57	郵送と電話だけでは時代に合わない。メールや携帯電話を前提とした申請様式、連絡方法を。	76	申請様式の変更
58	まず司令塔が無ければ進まない。他市では情報政策を担当する部署は局長、部長クラスだが千葉市は未だに課レベル。組織を見直し、千葉市の情報戦略を強力に推進できる体制を構築する。	77	情報戦略の推進体制の構築
59	千葉市の大型システムは老朽化しており、わずかな制度変更にも莫大なシステム修正コストがかかっている。システムを再構築し、市民に便利な電子行政サービスが実現できる基盤を作る。	78	レガシーシステムの見直し

v 京葉工業地域の中心に相応しい科学の都:千葉市へ

60	千葉市には京葉工業地域の企業群、千葉大学・東大生産技術研究所・放射線医学総合研究所など科学の最先端を行く学術研究機関があるほか、幕張新都心や姉妹都市にNASAの宇宙センターを抱えるヒューストン市がある屈指の産業・科学都市。これを基軸に千葉市のイメージを確立する。	79	「科学の都:千葉市」の確立(事業方針の作成)
61	2007年に開館した千葉市科学館をその旗艦として位置づけ、子どもだけでなく大人も科学に親しむスーパー・サイエンス・シティの発信基地とする。	80	「科学の都:千葉市」の確立(科学館事業の充実)
62	“科学の祭典の日”を創設し、中央公園を始め、市の各種施設や学校・公民館などあらゆる場所で市民や観光客が科学に触れることができる日を作る。	81	「科学の都:千葉市」の確立(「科学の祭典の日」の創設)

vi 地元経済の活性化と雇用の確保

63	商店街支援事業をより活用しやすい制度となるよう工夫し、頑張る商店街を強力に支援する。	82	商店街への支援の強化
64	案内板の設置を積極的に進め、中心市街地の回遊性を高めるとともに、市施設・文化資産の利用拡大に努める。	83	中心市街地における情報発信
65	市が既に実施している雇用対策に加え、臨時雇用の更なる創出や雇用に関する窓口の一本化を行うほか、新型インフルエンザの影響などによる更なる景気の落ち込みに備えた追加対策についても検討する。	84	雇用に関する対策等の充実